

絵図から見えること(14)

さいのかみほせつ
才神暮雪

才(塞)の神は、村境や道の交差する所に祀られ、邪気を防いでくれる神といわれています。

「相川八景」に描かれている「才神暮雪」では、場所の特定ができませんが、嘉永年間(1848~54年)前後に描かれた「佐州相川略図」の添え書きに、「八景此中ニアリ」として、道遊の割戸に隣接して「才神山」が描かれています。

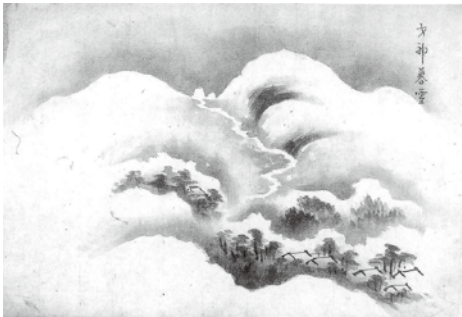
相川金銀山の開発が本格的になった慶長年間初頭(1600年前後)の言い伝えに、「川村彦左衛門吉久御検地の節、下戸・羽田村卜別シ、野山入会ニテ境其頃ヨリ有増定マル」(下戸村由来)とあるので、この頃、下戸村・羽田村境に才の神が祀られたものと考えられます。

「相川八景」には、「東は山を重ね道遊の峯に輝く月、才の神の雪に映し」とあって、「夕かけて曇るともなき此神の恵にも雪もつもる光りに」と詠まれ、この連歌発句にも「才神暮雪 夕越えん道の手向や雪の花」とあります。

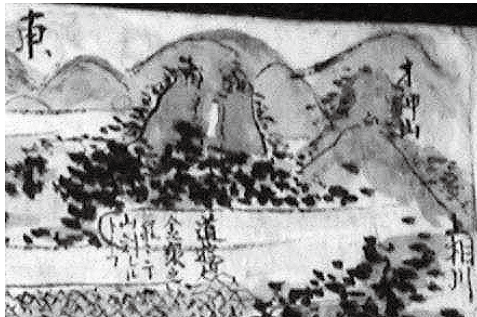
◆市役所世界遺産推進課

(金井就業改善センター内)

☎ 63-5136



「相川八景」に描かれた才神暮雪



「佐州相川略図」(岩木文庫蔵)に描かれた才神山(右側)



ジオパーク、推進日記

40

★新潟地震から50年

昭和39(1964)年6月16日に発生した新潟地震から、今年で50年を迎えました。

両津港周辺に押し寄せた津波によって、約400戸が水に浸かり、地震の揺れにより家屋や道路が壊れ、約1億2千万円にのぼる被害を受けました。新潟国体の視察のため

に昭和天皇が来島された直後の地震で、鬼太鼓が町内を回る夷祭りの最中に起こった自然災害です。この災害の怖さを体験している世代が少なくなっていく中で、残っている記録を確認したり、体験者の話に耳を傾けたりして、この時の教訓を忘れずに次の世代につなぎ、今後起こりうる



新潟地震でえぐられた加茂湖口の道路

る災害に備えなければなりません。防災教育は、ジオパークにおいても重要なテーマです。文部科学省では、災

害時、適切に対応できる基礎能力を培い「生きる力」を育むことや、自然が持つ恩恵と災害の二面性を理解することなどを、防災教育のねらいとしています。自然と人間との関係を考える点で、環境教育とも大いに関連しています。

私たちが住んでいる日本列島は、4枚のプレート(地球の表面の岩板)の境界に位置しています。地震はプレート同士がぶつかる境界で起きるので、日本では地震が多いのです。反対に、境界がない北欧では、ほとんど地震が起きません。このように住んでいる地域の特性を理解して、その地域で起こりうる災害とどのように共存して生きていくかを考えていく必要があります。

地震は、地球が活動している証拠です。そもそも、佐渡が海面から顔を出し、私たちや動植物などが暮らすことができるようになったのも、地震など地殻変動が繰り返されたからなのです。

◆教育委員会社会教育課

ジオパーク推進室(佐渡博物館内)

☎ 52-2447